

行政評価事務事業一覧

【まちづくりの目標2_健康・福祉】

施策 2-4_高齢者福祉の充実

基本計画		事業番号	細事業名称
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	00134_01	高齢者保健福祉計画策定事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	00343_01	要介護者紙おむつ支給事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	00345_01	住宅改修支援事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	00349_01	家族介護者慰労金支給事業(介護特会)
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	03071_01	緊急通報体制整備事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	03228_01	要介護者理美容サービス事業
2-04-01	住み慣れた地域での生活支援	03277_01	見守り推進員設置委託事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00325_01	生活支援体制整備事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00333_01	介護予防ケアマネジメント事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00335_01	介護予防一般高齢者施策事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00336_01	シルバーボランティア事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00337_01	健康長寿地域拠点づくり事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00357_01	地域リハビリテーション活動支援事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	00366_01	栄養改善個別指導事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03338_01	生き生きデイサービス委託事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03347_02	低所得者保険料軽減繰出金
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03392_01	高齢者福祉センター整備事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03444_01	指定介護予防支援事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03566_01	保健事業・介護予防一体的実施事業
2-04-02	介護予防及び介護サービスの充実	03581_01	介護基盤整備等事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00168_01	包括的継続的ケアマネジメント支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00340_01	高齢者の生きがいと健康づくり事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00342_01	認知症総合支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00342_02	認知症高齢者地域支え合い事業補助金
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00348_01	成年後見制度利用支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00356_01	在宅医療・介護連携推進事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	00372_01	認知症高齢者地域支え合い事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03214_01	家族介護者慰労金支給事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03524_01	シニアクラブ活動支援事業
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03524_02	老人クラブ運営補助金
2-04-03	共に生き支え合う社会づくり	03552_01	ねんりんピック開催事業

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00134_01		
事業名(行目名称)		計画策定委員会費	細事業名	高齢者保健福祉計画策定事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の高齢者		数値	37328人		
	手段(どうやって)	保健・医療・福祉の有識者及び市内の各種団体の代表者等で構成する「新居浜市高齢者保健福祉計画推進協議会」において協議・検討を行う。協議会は、年数回開催し、介護保険事業計画、介護保険給付、介護保険料、保健福祉事業及びその他高齢者施策に関する計画を策定し、市長に報告する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	令和2年3月に新居浜市高齢者福祉計画2021(介護保険事業計画)が策定され、現在、新居浜市高齢者福祉計画2024(介護保険事業計画)を策定中である。この計画内容について、現状分析し、内容を見直しながら計画を策定する。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			6,084	6,084	5,395	○需用費 142千円 ○役員費 992千円 ○委託料 4,950千円	
財源	県・国支出金		0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他		0	0	0		
	一般財源		6,084	6,084	5,395		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
新居浜市高齢者福祉計画2024(介護保険事業計画)の策定		目標値	0	0	0	1	0
		実績	0	0	0	1	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>65歳以上の要介護認定を受けていない方、要支援1～2の認定を受けている方を対象に『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』及び在宅の要介護(要支援)認定を受けている方、その介護者の方を対象に『在宅介護実態調査』を実施し、調査結果を計画に反映させ、随時、国の基本指針等を計画に位置づける。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>介護保健法に基づき、3年を1期とする計画策定が義務づけられていることから、計画見直しを行う年には引き続き予算要求をしていく必要がある。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
<p>新居浜市高齢者福祉計画2024(介護保険事業計画)を基に、保健福祉サービスの充実、介護保険事業の整備等を計画的に取り組む必要がある。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00343_01		
事業名(行目名称)		要介護者紙おむつ支給事業費	細事業名	要介護者紙おむつ支給事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護者3以上の者		数値	2,690人		
	手段(どうやって)	9月・3月に希望する品目(紙おむつや尿とりパッド)を現物で対象となる介護者に支給する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者に紙おむつなどを支給することにより経済的・精神的負担を軽減する。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		10,981	13,943	13,943	11,895	○報酬 1,901千円 ○職員手当等 317千円 ○共済費 394千円 ○旅費 51千円 ○役務費 60千円 ○委託料 11,220千円	
財源	県・国支出金	6,812	8,052	8,052	7,092		
	地方債		0	0			
	その他	0	3,207	3,207	0		
	一般財源	4,169	2,684	2,684	4,803		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
支給者数		目標値	380	300	300	300	270
		実績	268	264	268	256	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>物価上昇による紙おむつの単価及び燃料費等高騰のため、委託料単価が増額傾向にある。 成果指標及び評価がより明確化するよう、令和5年度より成果指標を「対象者数」から「支給者数」に変更した。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>在宅介護支援サービスとして最もニーズがあり、中重度の介護を要する高齢者を支援するための重要な事業であるため、今後も継続する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)	C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
<p>令和5年度の支給要件を満たし、支給決定となった介護者に対し、紙おむつ、尿取りパッドの支給を行った。要介護者が入院、施設入所、死亡等により支給要件を満たさなくなり、支給者数が減少したが、事業は適切に実施できた。今後については、介護認定有効最長期間が延長されたこと及び第9期介護保険事業計画期間における取扱いに準じ、よりの確な支給要件となるよう見直しを行いつつ、事業を実施していく。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00345_01		
事業名(行目名称)		住宅改修支援事業費	細事業名	住宅改修支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	介護支援専門員が属する居宅介護支援事業者等	数値	62事業所			
	手段(どうやって)	住宅改修費に添付する理由書を作成した介護支援専門員が属する居宅介護支援事業者等に対し、1件につき2,000円の支援費を支給する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護支援専門員業務に対する支援を行うことにより、住宅改修及び利用者の円滑なサービス需給を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		70	60	60	30	○負担金補助及び交付金 60千円	
財源	県・国支出金	43	34	34	18		
	地方債		0	0			
	その他	0	15	15	0		
	一般財源	27	11	11	12		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
支援件数		目標値	60000	50000	15	30	30
		実績	48000	70000	9	15	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>年度により支援件数の増減があるものの、住宅改修の需要は高い。今後も居宅介護支援等の提供を受けていない方にも円滑に住宅改修が受けられるよう、居宅介護支援事業所との連携を図り、分かりやすい広報にも努めていく必要がある。 成果指標及び評価がより明確化するよう、令和5年度より成果指標を「支援費額」から「支援件数」に変更した。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>居宅介護支援等の提供を受けていない要介護等への円滑なサービス提供のため、実績から鑑みて令和5年度と同等額が必要である。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>支援費を支給することにより、住宅改修以外の介護保険サービスの利用がなく居宅介護支援等の提供を受けていない要介護者等に対する住宅改修の円滑なサービス提供を行うことができる。このまま維持することが妥当である。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00349_01		
事業名(行目名称)		家族介護者慰労金支給事業費	細事業名	家族介護者慰労金支給事業(介護特会)			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護4以上の者	数値	1,680人			
	手段(どうやって)	在宅で、介護サービスを利用していない中重度の介護を要する高齢者の介護保険料の所得段階が1の者は、月額7,000円、所得段階が2、3の者は、月額5,000円慰労金を支給。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅で、中重度の介護を要する高齢者を介護している介護者に対し、介護手当を支給することにより、介護者の経済的・精神的負担の解消を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		0	146	146	0	○需用費 1千円 ○役員費 1千円 ○扶助費 144千円	
財源	県・国支出金	0	84	84	0		
	地方債	0	0	0	0		
	その他	0	34	34	0		
	一般財源	0	28	28	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
支給者数		目標値	100	100	3	3	3
		実績	0	0	0	0	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
成果指標及び評価がより明確化するよう、令和5年度より成果指標を「支給月」から「支給者数」に変更した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	拡大				
介護サービスを利用していない中重度の介護を要する高齢者を介護している者の経済的負担軽減や在宅介護支援のため、事業を継続する。福祉用具貸与のみ等の要介護者を介護する者への支給を想定し、予算を拡大する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		B: 事業の進め方の改善検討				
地域支援事業対象である、在宅で事業実施前1年間、介護サービスを利用していない要介護者が該当しなかったため、令和5年度も支給者数は0名であった。今後については、地域支援事業の対象要件をより精査・調査し、在宅介護を支援する地域支援事業を継続していく必要がある。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03071_01		
事業名(行目名称)		緊急通報体制整備費	細事業名	緊急通報体制整備事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の独居高齢者	数値	4,128人			
	手段(どうやって)	緊急通報装置(シルバーあんしんSシリーズ)を申請者に貸与し、緊急時にはボタン1つで第1通報先(委託契約先)を経由して、第2、第3通報先の協力者(友人、親族等、申請時に登録のあった者)に連絡を行う。第1通報先は、必要があればかかりつけの病院への連絡や、救急車の出動依頼も行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	独居高齢者の事故の防止・緊急時の連絡体系の確保					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,239	1,357	1,357	1,178	○役務費 80千円 ○委託料 1,277千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,239	1,357	1,357	1,178		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
緊急通報装置設置数		目標値	200	200	200	200	85
		実績	124	98	93	85	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
施設入所等により、設置件数が減少傾向にある。設置件数を増加させていくための方策が必要。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
独居高齢者の不安解消及び緊急時の連絡体制づくりを図るため、今後も事業を継続する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
携帯電話普及等により緊急通報装置設置数は年々減少している。現在、緊急通報装置を設置している独居高齢者については、不安解消及び緊急時の連絡体制づくりを図るため、今後も保守点検等を継続していくが、事業内容については検討が必要である。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03228_01		
事業名(行目名称)		要介護者理美容サービス事業費	細事業名	要介護者理美容サービス事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護3以上の者	数値	2,690人			
	手段(どうやって)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者宅へ散髪の利用券(年3枚)を送付し、理容組合に委託して訪問理美容を実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	ねたきりや認知症の状態にある方を在宅で介護している介護者に対する支援を行い、寝たきりの高齢者、介護者の経済的・精神的に安定した生活の援助を行う。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,042	1,141	1,141	1,064	○役務費 21千円 ○委託料 1,120千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	1,042	1,141	1,141	1,064		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
延べ利用者数		目標値	250	270	250	250	240
		実績	262	255	217	261	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
成果指標をより適切な表現にするため、令和5年度より成果指標を「対象者数」から「延べ利用者数」に変更した。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
住宅介護支援サービスとしてニーズが高く、中重度の介護を要する高齢者を介護している者を支援する重要な事業であるため、今後も事業を継続する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
令和5年度の支給要件を満たし、支給決定となった介護者に対し、理美容券を送付した。介護者が必要に応じ理美容券を使用し、事業は適切に行われた。令和6年度以降においては、紙おむつ支給事業と支給要件が同じであることから、理美容サービス事業についても、同様に支給要件の見直しを行いつつ、在宅介護者の負担軽減を図るため、事業を継続して行う必要がある。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2023	03277_01
事業名(行目名称)		見守り推進員活動費		見守り推進員設置委託事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策		
	基本計画	住み慣れた地域での生活支援		担当課		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	概ね70歳以上の見守りを必要とする独居高齢者			数値	2,658人
	手段(どうやって)	独居高齢者約10人に1名の見守り推進員を配置し、ふれあい協力員の協力を得て対象者を可能な限り訪問し安否確認を行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	安否確認を定期的に行うことにより、独居高齢者の不測の事故、災禍の防止及び孤独感の解消を図る。				
III 投入費用						
実施年度		令和4年度決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○委託料 4,723千円
経費		4,465	4,723	4,723	4,353	
財源	県・国支出金	0	0	0	0	
	地方債		0	0		
	その他	4,465	4,723	4,723	4,353	
	一般財源	0	0	0	0	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度
見守り推進員数			目標値	280	280	280
			実績	276	273	273
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			高い
見守り推進員のなり手不足が課題であり、見守り対象者の見直しを行っている。						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
見守り推進員のなり手不足解消を図るための方策を検討しつつ、今後も事業を継続させていく。						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和5年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討			
独居高齢者を地域で見守り、対象者が住み慣れた地域で安心して暮らすための取り組みとして事業を実施した。しかし、見守り推進員のなり手不足という課題があり、見守り対象者の精査を行い、推進員の負担軽減を図っていく必要がある。また、見守りに係る委託料単価の増額を行うなどして、今後も見守り推進活動を継続していけるよう見直しを行う必要がある。						

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00325_01			
事業名(行目名称)		生活支援体制整備事業費	細事業名	生活支援体制整備事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民		数値	37328人			
	手段(どうやって)	第1層(市)に1人、第2層(生活圏域)に各1人ずつコーディネーターを配置し、地域の実情把握や資源開発等に携わる。コーディネーターの協議の場として、協議体もそれぞれ設置する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護予防や生活支援のための様々な資源を調整して、在宅生活を支える地域づくりを推進する。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		12,455	13,321	13,321	12,766	○報酬 5,569千円 ○給料 3,264千円 ○職員手当等 1,523千円 ○共済費 2,008千円 ○旅費 492千円 ○需用費 65千円 ○使用料及び賃借料 400千円		
財源	県・国支出金	7,726	7,692	7,692	7,611			
	地方債		0	0				
	その他	0	3,065	3,065	0			
	一般財源	4,729	2,564	2,564	5,155			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
協議体設置数			目標値	7	7	7	7	7
			実績	6	6	6	6	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
令和3年度から既存の地域の会を活用して、住民が主体的に地域課題の解決に向けて協議できるような機会を模索している。第2層協議体が立ち上がっている6校区においては、地域課題を整理し、地域の実情に応じた差え合い活動が積極的に協議していけるよう、ランチ、健康長寿コーディネーターを中心に運営している。地域の主体性の課題の実情が大きく異なるため進め方には校区差があるものの協議体の機会を重ねながら目的を持って進めている。令和2年度第1層協議体で政策提言を行ってきた「食料品アクセス問題」では、第2層協議体等での取り組みを継続することで「スーパー等の食品業者」と「買い物支援が必要な高齢者」とのマッチングに繋がり、支援サービスの輪が広がっている。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
第2層(日常生活圏域担当)を4人、1圏域は第1層(市全体を担当)コーディネーターが兼務する体制をとっている。生活体制を支援するために、地域の課題抽出や受け入れ差のある中で、地域の支え合いの推進を継続して啓発していく。また、協議体及び協議体と同様の機能をもつ地域の様々な会に参加し、高齢者分野での地域課題を明確にし、地域住民が主体性をもって地域づくりに参画していけるよう、地域との繋がり構築とサポートを継続して行っていく。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和5年度)	B:事業の進め方の改善検討					
地域住民が社会資源を活用しながら、住み慣れた地域での生活が続けられるよう、介護予防や生活支援につながる社会資源を収集・整理し、地域住民のニーズと社会資源のマッチングを実施した。また、地域診断や協議体での議論から抽出した地域課題の解決につながるような新たな資源を開発していく必要があるが、自治会単位には限界があるため、新たに圏域単位での協議体発足をめざす。地域住民の中から、協議体のメンバーとなる、課題の解決に向けたとともに協議ができる人材の発掘を目指し、令和5年度には、「川東圏域拠点交流会」を開催。令和6年度には「川西圏域拠点交流会」の開催を予定している。								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2023	00333_01	
事業名(行目名称)		介護予防ケアマネジメント費		細事業名	介護予防ケアマネジメント事業		
総合 計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要							
事務 事業 内容	対 象(誰・何を)	要支援1・2、事業対象者			数値	2377人	
	手 段 (どうやって)	地域包括支援センター職員または、居宅介護支援事業所に委託して、介護予防ケアマネジメントとして、サービス事業対象者の利用計画や継続支援、評価等を行う。					
	目 的 (どんな状態にしたいのか)	適切なケアマネジメントにより、生活機能の低下を防ぎ、自立した生活が続けられるよう支援し、高齢者の生活の質の向上を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		24,790	28,416	28,416	22,984	○報酬 5,013千円 ○職員手当等 836千円 ○共済費 1,025千円 ○旅費 341千円 ○委託料 20,895千円 ○使用料及び賃借料 200千円 ○負担金補助及び交付金 106千円	
財 源	県・国支出金	10,517	12,105	12,105	9,689		
	地方債		0	0			
	その他	0	12,759	12,759	0		
	一般財源	14,273	3,552	3,552	13,295		
IV 指 標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
介護予防ケアマネジメント利用者数(延べ)		目標値	84.54	84.21	6100	6100	6100
		実績	83.65	84.74	2978	6037	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
介護保険法に定められた必須事業。介護予防支援事業と一体的に実施するとともに、介護予防・自立支援に資するケアマネジメントとなるよう介護支援専門員の資質向上や市民への意識啓発を図りながら効果的な実施を図る。なお、成果指標については、高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合から評価がより明確化するように介護予防ケアマネジメント利用者数(延べ)に改める。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
高齢者が可能な限りその居宅において自立した日常生活を継続するということを実現するために、要支援認定者や基本チェックリストにより該当となった「事業対象者」に対して、訪問型サービス、通所型サービス及び介護予防ケアマネジメントを提供することにより、要支援者等の自立を支援する事業であるため継続して実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
介護予防ケアマネジメント利用者数については、一進一退ではあるが、一定の効果があると思われる。また、本事業は必須事業でもあるため、別途介護支援専門員の資質向上を図りながら、引き続き介護予防ケアマネジメントを推進する。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2023	00335_01	
事業名(行目名称)		介護予防一般高齢者施策事業費		細事業名	介護予防一般高齢者施策事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民			数値	37328人	
	手段(どうやって)	介護予防の意識啓発のため、広報誌等による周知啓発や介護予防教室等を実施。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	地域において、自主的な介護予防活動が実施され、高齢者が積極的にこれらの活動に参加し、また、元気な高齢者自身が支え手となって、みんなで支えあい、介護予防に向けた取り組みを実施する地域社会を構築する。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		14,718	17,527	17,527	14,452	○報酬 1,841千円 ○給料 2,783千円 ○職員手当等 822千円 ○共済費 1,061千円 ○旅費 357千円 ○需用費 309千円 ○役務費 54千円 ○委託料 10,000千円 ○使用料及び賃借料 300千円	
財源	県・国支出金	6,243	7,465	7,465	6,093		
	地方債		0	0			
	その他	0	7,872	7,872	0		
	一般財源	8,475	2,190	2,190	8,359		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	
介護予防教室延べ参加者数			目標値	1000	1000	700	1000
			実績	952	1032	725	1091
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや低い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>集団を対象とした教室の中で、参加者1人1人の心身の状態に合わせた個別的な指導実施には限界のため、心身機能が低下している参加者に対しては、教室開催の前後に訪問評価や評価会議を実施し、個別的なアセスメントや指導を行うことで介護予防の効果を高められるようにしている。また、今年度からは個別指導が必要である、高血圧者や低栄養者(BMI18.5未満者)についても、課内の医療職と委託事業者で協議し、1人1人に合わせた指導方針を決定、進捗を確認することで効果的な指導を行っている。</p> <p>委託事業のため、指導内容や教室運営の標準化を図るため、テキストやプログラム構成を見直している。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>教室参加者の機能低下者を抽出し、教室開催の前後の訪問評価や評価会議を実施することで、在宅生活継続に向けた課題を抽出し、教室での学びがより効果的になるような指導ができる体制を確立している。自発的な介護予防に資する活動の育成・支援のため、効果的な事業展開が行えている。今後も、教室終了後に社会資源や他事業への接続や支援者との連携を図り、介護予防効果を向上できる仕組みを定着させていく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>参加者のうち、72.4%が生活機能(教室の初回と最終回の生活機能の低下を判断するための25項目の質問より)を維持・改善できており、介護予防に資する教室を実施できた。さらに介護予防の効果を高めるためには、3か月間の教室後も通いの場等に繋がり、社会との関わりを持ち続けることが重要であることから、地域住民の健康づくりと地域づくりを支えるボランティアである市民体操指導士が健康長寿地域拠点(以後拠点)の魅力語る会を設ける、拠点参加への個別マッチングを行うことで、32.0%であった教室参加者の拠点参加率が39.0%に向上した。次年度も拠点や社会参加への橋渡しを行うために、具体的に社会資源を活用するイメージが持てる機会を作っていく。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00336_01		
事業名(行目名称)		シルバーボランティア事業費	細事業名	シルバーボランティア事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の要介護・要支援認定者を除く市民		数値	35221人		
	手段(どうやって)	高齢者のボランティア活動を評価したうえでかがねポイントを付与し、当該高齢者の申し出により、ポイントを交付金等と交換する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者がボランティア活動を通じて、社会参加や地域貢献をするとともに、健康増進を図り介護予防につなげる。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 225千円	
経費		102	225	225	170		
財源	県・国支出金	44	95	95	72		
	地方債		0	0			
	その他	0	102	102	0		
	一般財源	58	28	28	98		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
ポイント交換者数		目標値	100	100	100	100	100
		実績	40	71	12	95	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや低い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>令和3年度から「シルバーボランティア事業」を廃止し、「ボランティア推進事業(主担課:地域コミュニティ課)」に統合している。10月現在、地域コミュニティ課で管理しているポイント換算では12名。年度末に大半の人がポイント交換するため、例年どおりの実績と予測される。ボランティア活動したい高齢者と活躍の機会とのマッチングが課題である。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>「シルバーポイント事業」は、令和4年度でポイント交付事務は終了しているが、地域支援事業交付金対象事業のため「ボランティア活動推進事業(主担課:地域コミュニティ課)」への予算措置を継続する。市民体操指導士活動や生活体制整備事業を通じてボランティアしたい高齢者と活躍の機会のマッチングを行う。ボランティア活動を通じて社会参加や地域貢献や介護予防につなげる取り組みを推進する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>ポイント交換者数が増加していた。予算不足はあるが確保しながら今後も事業を推進していく。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00337_01	
事業名(行目名称)		健康長寿地域拠点づくり事業費	細事業名	健康長寿地域拠点づくり事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上の市民		数値	37328人	
	手段(どうやって)	自治会館等を活用して、高齢者が主体的に通いの場を運営できるように支援する。地理的条件の悪い大島地区においては、介護予防を希望する高齢者が食事やコミュニケーション、軽い体操などの介護予防プログラムに取り組めるよう、介護予防事業所に委託して支援を行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	一般高齢者の介護予防と高齢者の居場所づくり、仲間づくり、役割づくり				
III 投入費用						
実施年度		令和4年度決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		6,395	14,150	14,150	8,018	○報償費 191千円 ○旅費 100千円 ○需用費 2,420千円 ○役務費 168千円 ○委託料 10,071千円 ○負担金補助及び交付金 1,200千円
財源	県・国支出金	2,713	6,027	6,027	3,380	
	地方債		0	0		
	その他	0	6,355	6,355	0	
	一般財源	3,682	1,768	1,768	4,638	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度
拠点立ち上げ数(累計)		目標値	125	120	120	120
		実績	99	106	107	109
V 事中評価						
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い
<p>現在は1拠点立ち上がっており、他にも拠点開設の準備中であるため、年度末には増加の見込みである。しかし、新型コロナウイルスの影響や参加者の高齢化により、拠点参加者の減少傾向が続いていることが課題である。また、新規拠点の開設だけでなく、既存拠点の消滅を防ぎ、インフォーマルな地域の資源として維持することや支援を行う委託指導事業者や市民体操指導士を安定して派遣できるよう支援体制を整えることも課題である。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
<p>新規拠点開設や参加者増加を目指して、幅広く普及活動を行うとともに、委託事業所や地域の人と連携しながら重点的な拠点の運営支援を行い、参加者同士がお互いを支え合う地域づくりを行う。新規拠点の開設と既存拠点の継続した運営、安定した指導者の派遣のために、現状と同程度の予算を要望する。</p>						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
<p>コロナ禍の影響により参加者数の減少が依然課題であるが、新たに3拠点を地域に立ち上げた。事業開始から年数が経過し、自治会館への拠点開設はすでに市内全域に広がっているため、様々なタイプの拠点を開設し地域住民が参加しやすくなるように、自治会館以外にも拠点を開設できるよう要綱改正を行い、公民館や介護施設等での開設を目指し関係者との協議を進めた。また消滅の危機にある拠点への支援として、拠点向けの継続支援講座を一般公開し、地域住民への参加を呼び掛けた。特に優先度の高い拠点に対しては健康長寿コーディネーターと医療職で連携して個別支援を行った。次年度は公民館への拠点開設を進めるため、全ての公民館へ意向調査および拠点拡大の必要性について説明を行い、開設可能な拠点から順次体験会の開催や広報活動で地域住民へのPRを行い、拠点開設につなげる。</p>						

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00357_01		
事業名(行目名称)		地域リハビリテーション活動支援事業費	細事業名	地域リハビリテーション活動支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上高齢者		数値	37328人		
	手段(どうやって)	リハビリテーション等専門職を活用して各介護予防事業等への助言指導、訪問指導等と事業改善を行う。助言指導等は介護予防教室、健康長寿地域拠点、地域ケア会議等の利用者、関係事業者等に行い、専門職は報償費で対応。事業改善は平成30年度に評価基準の作成、令和元年度・3年度に市民体操指導士の養成、令和2年度にPPK体操のバージョンアップを、専門職団体への委託により行う。令和4年度以降は、介護予防事業等へのアセスメントと評価に関するガイドラインの作成と市民体操指導士の養成を引き続き行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	専門職の関与によりPDCAサイクルを回して、高齢者に将来に渡って(人生の最期を迎える日まで)自立支援につながる介護予防事業を提供、もって健康寿命の延伸を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		288	1,613	1,613	479	○報償費 1,568千円 ○需用費 45千円	
財源	県・国支出金	122	686	686	202		
	地方債		0	0			
	その他	0	726	726	0		
	一般財源	166	201	201	277		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
市民体操指導士養成人数(累計)		目標値	40	43	43	43	43
		実績	21	43	43	43	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>養成した市民体操指導士の指導スキルの平準化と質の向上を図り、円滑に介護予防事業を進めていくために、介護予防事業の委託指導事業者との連携を強化していく必要がある。また、市民体操指導士が主体的に活動できる範囲を拡大し、やりがいを感じられるよう支援を行う必要がある。令和5年度は、在宅で生活する高齢者の自立支援を促進するため、ガイドブックの作成も行っている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>市民体操指導士の指導スキルの平準化と質の向上のため、フォローアップの講座を実施し、委託事業者との連携を強化していく。また、リハビリテーション専門職を活用して作成した自立支援に関するガイドブックの普及・啓発活動も実施していく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>市民体操指導士養成講座は3年に一度実施しており、次回は令和7年度新たに養成予定。今年度は新たな市民体操指導士の養成は実施していないが、健康長寿地域拠点づくり事業指導事業者伝達研修会において、リハビリテーション職から個人の病態や運動機能に合わせた体操指導のポイントを指導した。また在宅で生活する高齢者の自立支援を促進するため、リハビリ職それぞれの専門性を活かした『在宅生活応援ブック』を作成した。今後もリハビリ職の専門性を活かした効果的な介護予防事業を展開する。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2023	00366_01		
事業名(行目名称)		栄養改善個別指導事業費		細事業名	栄養改善個別指導事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	65歳以上高齢者のうち要支援認定者及び事業対象者			数値	2294人		
	手段(どうやって)	退院直後や外出困難等、生活に何らかの課題があり、短期集中的(3~6か月)に支援することにより生活機能の向上が見込まれると判断し、自宅等での生活が継続可能となる者に対して介護ケアマネージメントを実施する。また効果的な指導になるよう管理栄養士等専門職が個別訪問指導を実施する。サービス終了後は、地域での社会参加や一般介護予防事業につなげる。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護予防・日常生活支援総合事業の介護予防・生活支援サービス事業(訪問型サービスC事業)として要支援者等の多様な生活支援のニーズに対応することを目的にサービスを充実する。 生活機能の向上が必要な高齢者が、自身の生活を見直し、改善及び自立を図り要介護状態になることを予防する。また、心身機能やセルフケア能力の向上、社会参加を促進し、自己決定に基づいた自分らしい生き生きとした生活を少しでも長く自宅等でつづけられるようにする。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		2,811	3,371	3,371	2,911	○給料 2,058千円 ○職員手当等 384千円 ○共済費 550千円 ○旅費 120千円 ○需用費 50千円 ○役務費 9千円 ○使用料及び賃借料 200千円		
財源	県・国支出金	1,192	1,435	1,435	1,227			
	地方債		0	0				
	その他	0	1,515	1,515	0			
	一般財源	1,619	421	421	1,684			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
利用回数 (令和5年度から利用人数から指標変更)			目標値	16	20	100	200	200
			実績	18	10	97	152	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>事業効果は高いが、利用者数が少ないことが課題であったため、改善策を強化している。改善策としては、介護サービス事業のため、ケアプランが必須のことからケアマネージャーへの周知・利用促進を強化するとともに、まだケアマネージャーがいない「サービス事業対象者」に対してケアプラン作成できる仕組みづくりを新たに創設している。また、この事業1コースが13回と回数が多いことも利用されない理由のため、まずは、訪問回数が少なくして利用しやすい「介護予防相談事業」を新設し、事業参加への入口を広げ、既存の「短期集中訪問型サービスC事業」へと接続している。そのため、評価指標を利用人数から利用回数に変更している。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>第9期介護保険事業計画(令和6~9年)においても、認定にたよらない、自宅等での生活が継続可能となるよう支援する「介護予防・日常生活支援総合事業による多様なサービスの充実」が重要なため継続して実施する。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和5年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当					
<p>以前は地域包括支援センターのケアマネージャーへ周知をおこなっていたが、今年度は市内のケアマネージャーまで周知啓発をおこなったことで、利用者数が伸びた。今後は利用者のニーズに合わせた対応ができるようしっかりとアセスメントを行い、利用者にあった指導ができるように対応したい。</p>								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03338_01		
事業名(行目名称)		生き生きデイサービス事業費	細事業名	生き生きデイサービス委託事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	別子山地区に在住で在宅の高齢者等		数値	64人		
	手段(どうやって)	新居浜市総合福祉センター別子山分館へ通所し、食事・入浴・健康指導・趣味活動を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	別子山地区に在住の在宅の高齢者等が、新居浜市総合福祉センター別子山分館への通所(月2回)により、日常動作訓練・趣味活動・健康指導を通して社会的孤立感の解消・自立生活の助長・要介護状態になることの防止を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		775	979	979	580	○役務費 1千円 ○委託料 978千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	775	979	979	580		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
延べ利用者数		目標値	190	190	190	190	140
		実績	127	190	76	142	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
別子山地区高齢者の交流の場となっており、介護予防及び自立生活助長のため、今後も継続して事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
別子山地区在住の高齢者が、自立生活を助長し、要介護状態になることの防止及び高齢者の孤立感解消を図ることができている。しかし、別子山在住の65歳以上の高齢者数は減少しており、それに伴い登録者数も減少傾向にある。既存の登録者について引き続き事業を継続し、事業全体の今後の方向性については検討していく必要がある。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03347_02		
事業名(行目名称)		(施)介護保険事業特別会計繰出金	細事業名	低所得者保険料軽減繰出金			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	保険料段階が第1段階～第3段階の第1号被保険者		数値	15534人		
	手段(どうやって)	公費を投入して、第1段階から第3段階までの保険料を軽減する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	介護保険料を払うのが困難な低所得者の負担を軽減する。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		211,781	212,820	212,820	211,028	○繰出金 212,820千円	
財源	県・国支出金	159,272	159,615	159,615	158,647		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	52,509	53,205	53,205	52,381		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
保険料軽減者数		目標値	15412	15489	15489	15478	15483
		実績	15609	15534	15534	15483	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
介護保険第1号被保険者(65歳以上)保険料について、低所得者(市町村民税非課税世帯全体)の負担軽減を強化する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
介護保険料を払うのが困難な低所得者(市町村民税非課税世帯全体)の負担軽減が図られた。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報				事後評価	2023	03392_01		
事業名(行目名称)		高齢者福祉センター整備事業		細事業名 高齢者福祉センター整備事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉		施策 高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実		担当課 介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内高齢者福祉センター(上部・川西・川東・大島分館)			数値	4箇所		
	手段(どうやって)	各高齢者福祉センターの経年劣化箇所等の修繕及び設備、備品の更新						
	目的(どんな状態にしたいのか)	利用施設及び設備の充実。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○需用費 556千円 ○工事請負費 1,947千円		
経費		1,451	2,503	2,503	1,626			
財源	県・国支出金	0	0	0	0			
	地方債	800	1,700	1,700	700			
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	651	803	803	926			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
延べ利用者数(4館合計)単位:人			目標値	100000	100000	100000	100000	100000
			実績	34622	59833	20000	64163	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
4施設とも建築されてから35年以上が経過しており、高圧受電設備、受水槽、ボイラー等の経年劣化が著しい状況で、いずれも改修工事を要する。								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
高齢者福祉センターは大島分館を含めた4館とも建築されて35年以上が経過しており、今後も施設本体、設備及び設置器具についても経年劣化が進み、継続的に修繕工事や設備更新が必要になる。								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和5年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
高齢者福祉センターにおいて令和5年度も修繕工事、設備更新を実施しているが、市内4か所の高齢者福祉センターは設置後約40年が経過しており、経年劣化による施設・設備の老朽化が進み、費用負担が増大していることから、3施設(上部・川西・川東高齢者福祉センター)の統廃合等について検討を行う必要がある。								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03444_01	
事業名(行目名称)		指定介護予防支援事業費	細事業名	指定介護予防支援事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	要支援1・2 者数	数値	2014人		
	手段(どうやって)	軽度者が適切な介護予防サービスを受けられるように、事前アセスメント、介護予防ケアプラン作成、事後アセスメントなどの介護予防ケアマネジメントを行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	軽度者(要支援1・2)に自立支援に向けた適切な介護予防サービスを提供することで、心身の状態の維持・改善を図り、住み慣れた地域・家庭で自立した日常生活を継続できるようになり、生きがいや自己実現欲求の創出など、高齢者の生活の質の向上を図る				
III 投入費用						
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		67,850	71,440	71,440	66,782	○報酬 14,927千円 ○職員手当等 2,488千円 ○共済費 3,050千円 ○旅費 1,023千円 ○需用費 398千円 ○役員費 210千円 ○委託料 48,600千円 ○使用料及び賃借料 600千円 ○負担金補助及び交付金 144千円
財源	県・国支出金	0	0	0	0	
	地方債		0	0		
	その他	67,850	69,240	69,240	66,609	
	一般財源	0	2,200	2,200	173	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度
介護予防支援サービス利用者数(延べ)		目標値	84.54	84.21	15000	15000
		実績	83.65	84.74	7418	14942
令和6年度						15000
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			やや高い
<p>介護保険法に定められた必須事業。介護予防ケアマネジメント事業と一体的に実施するとともに、介護予防・自立支援に資するケアマネジメントとなるよう介護支援専門員の資質向上や市民への意識啓発を図りながら効果的な実施を図る。なお、成果指標については、高齢者全体に占める自立者・軽度者の割合から評価がより明確化するように介護予防支援サービス利用者数(延べ人数)に改める。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
<p>高齢者が可能な限りその居宅において自立した日常生活を継続するというを実現するために、要支援1又は要支援2の認定者に対し要介護状態へ移行することを予防する観点から地域包括支援センターが行わなければ事業であるため継続して実施する。</p>						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
<p>高齢者全体に占める自立者・軽度者の利用者数は、一進一退ではあるが、一定の効果はあると思われる。また、本事業は、介護予防ケアマネジメントと併せて、要支援者のケアマネジメントを行うもので、必須事業でもあるため、別途介護支援専門員の資質向上を図りながら、引き続き事業を継続する。</p>						

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03566_01	
事業名(行目名称)		保健事業・介護予防一体的実施事業費	細事業名	保健事業・介護予防一体的実施事業		
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実		
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	地域包括支援センター		
II 事務事業の実施概要						
事務事業内容	対象(誰・何を)	75歳以上の市民		数値	20892人	
	手段(どうやって)	高齢者の保健事業の実施主体である後期高齢者広域連合から業務委託を受けて、市が高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施する。KDBシステムを活用した健康データの分析、事業の企画調整と、それに基づく個別の保健指導及び通いの場等での健康相談、健康講座等を行う。				
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者の疾病予防と心身機能の向上を一体的に実施することで介護予防の推進を強化し、健康寿命を延伸する。				
III 投入費用						
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース
			当初予算額	年度末予算額	決算額	
経費		1,056	3,789	3,789	2,349	○報酬 1,783千円 ○給料 515千円 ○職員手当等 394千円 ○共済費 516千円 ○旅費 171千円 ○需用費 276千円 ○役員費 34千円 ○使用料及び賃借料 100千円
財源	県・国支出金	0	0	0	0	
	地方債		0	0		
	その他	979	3,789	3,789	2,334	
	一般財源	77	0	0	15	
IV 指標						
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度
健康長寿地域拠点訪問箇所数		目標値	24	50	38	75
		実績	24	60	38	62
V 事中評価						
評価視点		妥当性	やや高い	有効性	やや高い	効率性
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する			
<p>「高齢者の保健事業と介護予防との一体的実施事業」の地域を担当する専門職の確保ができなかったため、「個別的支援(ハイリスクアプローチ)は国保課」で高血圧・糖尿病等の重症化予防の取り組みを、「拠点等への積極的な関与等(ポピュレーションアプローチ)は地域包括支援センター」でフレイル講座と健康相談を可能な範囲で実施していたが、10月より地域包括支援センターに専門職を雇用できたため、マンパワー不足のため実施を見送ってきた「個別的支援(ハイリスクアプローチ)低栄養防止事業」を開始する。また、実施可能な立地条件の拠点では、フレイル講座とともに保健福祉車両MaaSを活用した健康相談を行っている。</p>						
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持			
<p>「高齢者の保健事業と介護予防との一体的実施事業」に従事する専門職の確保ができたが、新たな予算要求はなし。</p>						
VI 事後評価						
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当			
<p>「高齢者の保健事業と介護予防との一体的実施事業」に従事する専門職の確保ができたため、「拠点等への積極的な関与等(ポピュレーションアプローチ)」と「個別的支援(ハイリスクアプローチ)低栄養防止事業」を地域包括支援センターで実施した。今後は、「個別的支援重症化予防事業」も含めた一体的実施事業におけるすべての事業を地域包括支援センターで実施する。「拠点等への積極的な関与等(ポピュレーションアプローチ)」については、拠点以外の通いの場へ積極的にアプローチを行っていく。</p>						

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03581_01			
事業名(行目名称)		介護基盤整備等事業	細事業名	介護基盤整備等事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	介護予防及び介護サービスの充実	担当課	介護福祉課				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	施設入所者(グループホーム定員18名、特別養護老人ホーム定員50名)		数値	68人			
	手段(どうやって)	第8期介護保険事業計画等に基づき、サービス事業者を公募し、サービス基盤整備を行う。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	中長期的な地域の人口動態や介護ニーズの見込み等を適切に捉えて、施設・サービス種別の変更など既存施設・事業所のあり方も含め検討し、地域の実情に応じて介護サービス基盤の整備を行う。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		38,606	7,551	122,103	60,603	○負担金補助及び交付金 7,551千円		
財源	県・国支出金	38,606	7,551	122,103	60,603			
	地方債		0	0				
	その他	0	0	0	0			
	一般財源	0	0	0	0			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
第8期介護保険事業計画(R3~R5年度)			目標値	—	2	0	1	0
			実績	—	0	0	1	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>第9期介護保険事業計画(R6~R8年度)期間中における介護サービス基盤の整備について、中長期的な地域の人口動態や介護ニーズの見込み等を適正に捉え、施設・サービス種別の変更など既存施設・事業所のあり方も含め検討し、地域の実情に応じて、令和7年度に2施設、令和8年度に1施設の介護サービス基盤の整備を行う予定。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>第8期介護保険事業計画等に基づき、サービス事業者を公募し、サービス基盤整備を行う。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>第9期介護保険事業計画に基づき、継続して実施する。第8期介護保険事業計画により令和4年度は2施設を整備するとしていたが、1施設しか公募がなく、その1施設についても年度内の整備が困難であったため次年度に繰越となった。</p>								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00168_01			
事業名(行目名称)		包括的継続的ケアマネジメント支援事業費	細事業名	包括的継続的ケアマネジメント支援事業				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	市内の介護支援専門員		数値	280人			
	手段(どうやって)	介護支援専門員の資質向上のための各種研修会の開催、ケアプラン作成に係る技術的指導及び助言。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	居宅介護支援事業者や介護サービス事業者、介護支援専門員などとの多職種協働や、その他地域の関係機関との連携を通じて、ケアマネジメント支援を行う。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		319	632	632	219	○報償費 496千円 ○旅費 65千円 ○需用費 47千円 ○負担金補助及び交付金 24千円		
財源	県・国支出金	198	364	364	130			
	地方債		0	0				
	その他	0	147	147	0			
	一般財源	121	121	121	89			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
地域ケア会議検討事例数			目標値	36	36	36	36	36
			実績	36	42	18	21	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	手段を改善する					
<p>幅広く地域課題を抽出するための地域ケア会議の検討事例数については、介護支援専門員が令和4年度末に多数退職したため、事例数については縮小傾向になると思われる。内容が適した事例かということに関しては疑問が残った。近隣市町の事例も参考にして、課題解決に向けた内容であるかなど、検討しながら行っていく必要がある。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>介護支援専門員の資質向上と共に地域課題を抽出できるなど、介護予防・自立支援を実現するためには、必要な事業であり、継続していく必要がある。</p>								
VI 事後評価								
成果		総合評価(令和5年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当					
<p>検討事例数については、介護支援専門員が多数退職したため計画通りに抽出することが難しかった。地域ケア会議を実施することで、介護支援専門員の資質向上と共に多職種で協議することで、ネットワークが強化され、日々のケアマネジメントにおいて相談できる関係が出来つつある。介護予防・自立支援を実現するための介護予防ケアマネジメントとなるよう、本事業を継続していく必要がある。</p>								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00340_01		
事業名(行目名称)		高齢者の生きがいと健康づくり事業費	細事業名	高齢者の生きがいと健康づくり事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	60歳以上の市民	数値	43821人			
	手段(どうやって)	高齢者を代表する組織である老人クラブに生きがいと健康づくり事業を委託する。 主な事業内容としては、(1)健康文化活動 (2)軽スポーツ活動 (3)公共施設の美化活動 (4)交通安全活動 (5)支え合いサロン活動 (6)栄養改善活動 など					
	目的(どんな状態にしたいのか)	高齢者が地域社会の各分野で、豊かな経験や知識、技能等を活かし、健康でかつ生きがいをもって社会活動ができるよう支援することで、元気高齢者づくりを促進させ、高齢者全般の介護予防に寄与し、ひいては本市の課題でもある健康長寿を延伸させることを目的とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○委託料 3,700千円	
経費		3,700	3,700	3,700	3,700		
財源	県・国支出金	1,570	1,575	1,575	1,560		
	地方債		0	0			
	その他	0	1,663	1,663	0		
	一般財源	2,130	462	462	2,140		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
事業参加者数 (年間延人数合計 単位:人)		目標値	50000	50000	50000	50000	50000
		実績	48343	38132	30000	35512	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>高齢者の生きがいと健康づくりや社会参加を促進し、高齢者の介護予防に資することを目的としており、老人クラブ会員自らが主体的に周囲の高齢者に対しても働きかけながら、様々な活動を推進していく必要があるが、どうしても多くの高齢者が参加しやすい健康文化活動、軽スポーツ活動、公共施設の美化活動の比率が高くなっており、介護予防等の観点から進めていく必要がある支え合いサロン活動等の活動が少なくなっている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>老人クラブ会員が老人クラブの活動を基盤としながら、地域社会の各分野で、豊かな経験や知識、技術等を活かし、健康でかつ生きがいをもって社会活動ができるよう支援することで、元気高齢者づくりを促進させ、高齢者の健康寿命の延伸につながっている。次年度も健康長寿社会の実現に向けて、高齢者の生きがいと健康づくりを積極的に推進するため、事業を継続する。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>本事業が展開されたことで、高齢者の健康寿命の延伸に寄与することができている。今後も市の推進課題でもある健康長寿社会の実現に向けて、介護予防活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを行政が積極的に促進していく必要がある。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00342_01		
事業名(行目名称)		認知症総合支援事業費	細事業名	認知症総合支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数		数値	37,328人		
	手段(どうやって)	認知症に関する相談、支援 認知症に関する正しい知識の啓発(認知症講演会他) 認知症見守りネットワークの構築及び地域での認知症見守りネットワーク活動支援 認知症初期集中支援チームの設置 認知症地域支援推進員の配置					
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,082	1,994	1,994	1,045	<ul style="list-style-type: none"> ○報償費 322千円 ○旅費 430千円 ○需用費 75千円 ○役務費 67千円 ○委託料 896千円 ○負担金補助及び交付金 204千円 	
財源	県・国支出金	672	1,150	1,150	623		
	地方債		0	0			
	その他	0	461	461	0		
	一般財源	410	383	383	422		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
認知症講演会参加者数		目標値	1340	1370	120	120	150
		実績	1346	1358	102	102	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>認知症になっても住み慣れた地域で尊厳を保ちながら穏やかに生活できるよう、認知症への正しい理解のための普及啓発、認知症高齢者の見守り・探索。保護などのネットワークづくり、認知症について相談があった早期に専門職が支援できる体制づくりを実施している。</p> <p>今年度は普及啓発として、認知症本人の気持ちを知るとともに、認知症の人と共に生きるために、できることを考えられる機会とすることを目的に、認知症当事者として認知症の普及啓発に取り組んでいるえひめ認知症希望大使と若年性認知症コーディネーターによる講演会を開催した。</p> <p>令和5年度より、成果指標を「認知症SOS協力期間数+地域SOS登録者数(各数値は累積)」から「認知症講演会参加者数」に変更したため、令和4年度と令和5年度に変動がある。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>今後も引き続き、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指し、認知症への正しい理解のための普及啓発及び、相談があった時に早期に支援ができる体制づくりに努めていく。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
<p>認知症講演会を開催し認知症の当事者から話を聞いたことで、市民に当事者の生活や認知症について知ってもらう機会となった。また、認知症地域支援推進員の配置や認知症初期集中支援チームの稼働等も行った。今後も認知症にやさしいまちづくり・共生社会を目指し、より多くの市民が理解を深め自分にできることを考えていける機会を確保していく。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00342_02			
事業名(行目名称)		認知症総合支援事業費	細事業名	認知症高齢者地域支え合い事業補助金				
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実				
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター				
II 事務事業の実施概要								
事務事業内容	対象(誰・何を)	角野、泉川校区高齢者数		数値	7,668人			
	手段(どうやって)	認知症についての正しい知識を普及啓発し、市民が認知症になっても見守ることができる地域になる。認知症による行方不明発生時の早期発見につながる支援活動や認知症の家族の介護負担を軽減する。						
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で尊厳を保ちながら、生活を継続することができる。また地域の見守り、支援活動による地域づくりにつながる。						
III 投入費用								
実施年度		令和4年度決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース		
			当初予算額	年度末予算額	決算額			
経費		489	494	494	487	○負担金補助及び交付金 494千円		
財源	県・国支出金	303	285	285	289	すみのSOS・見守りネットワーク:254千円 泉川SOS・見守りネットワーク:240千円		
	地方債		0	0		使途:住民へ配布するパンフレット等の印刷費、活動に必要な消耗品・備品購入費等		
	その他	0	114	114	0			
	一般財源	186	95	95	198			
IV 指標								
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度	
ふれあいサポーター(角野)、あいサポーター(泉川)登録者数			目標値	1170	1200	1215	1230	1260
			実績	1172	1184	1189	1189	—
V 事中評価								
評価視点		妥当性	高い	有効性	やや高い	効率性	やや高い	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する					
<p>新型コロナウイルスの影響により、活動がしにくい状況が続いていたが、角野では、ふれあい劇団(認知症の寸劇)の活動、搜索模擬訓練、認知症カフェの開催、認知症の勉強会、泉川では、認知症かるたの作成及び活用、搜索模擬訓練等の認知症についての普及啓発活動が徐々にではあるが再開している。</p>								
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持					
<p>認知症への理解を深め、正しい知識を持ち適切な対応ができる住民が増え、住民主体での見守り体制が構築できるよう活動支援を行っていく。</p>								
VI 事後評価								
成果	総合評価(令和5年度)		B:事業の進め方の改善検討					
<p>住民が主体となり認知症に関する知識の普及や徘徊による行方不明発生時に早期発見できるネットワークの構築、家族の介護負担軽減のための支援などを実施し、地域の認知症への理解や見守り力の向上に努めた。補助金額については今後検討が必要である。</p>								

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00348_01		
事業名(行目名称)		成年後見制度利用支援事業費	細事業名	成年後見制度利用支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	成年後見開始の審判申立を行うべき者がいない認知症高齢者等		数値	10人		
	手段(どうやって)	認知症等により判断能力が十分でない高齢者が成年後見制度を利用するにあたり、申立を行うべき配偶者等の4親等以内の親族がない場合、市長が成年後見開始の審判申立を行うとともに、費用について助成を受けなければ成年後見制度の利用が困難と認められる者について助成を行う。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	成年後見制度の利用を支援することにより認知症高齢者等の権利を擁護する。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,834	2,309	2,309	2,195	○報償費 1,296千円 ○役務費 301千円 ○委託料 712千円	
財源	県・国支出金	1,137	1,332	1,332	1,309		
	地方債		0	0			
	その他	0	533	533	465		
一般財源		697	444	444	421		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
市長申立てによる成年後見制度利用者数(人)		目標値	4	10	10	10	10
		実績	14	15	5	13	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>認知症高齢者の増加により、成年後見制度利用促進についての市町の主体的関与が必要となっている。関係機関等からの成年後見人の選任についての相談が増えており、成年後見等の申立件数も増えている。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>平成28年度に成年後見制度の利用促進に関する法律が制定され、行政による積極的な制度の推進が不可欠となっており、今後も市長申立てによる成年後見制度利用者は増加することが予想されるため、計画に沿って事業を進めていく。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>超高齢社会が進行している状況下において、今後も判断能力が全くない若しくは十分でない認知症高齢者の増加は避けられない。令和5年度も市長申立ての必要があった案件13件について、家庭裁判所の審判を得ることができた。平成28年度に成年後見制度の利用促進に関する法律も制定され、行政による積極的な制度の推進が不可欠となっており、今後も市長申立てによる成年後見制度利用者は相談案件も含めて増加することが予想されるため、計画に沿って事業を進めていく。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00356_01		
事業名(行目名称)		在宅医療・介護連携推進事業費	細事業名	在宅医療・介護連携推進事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数	数値	37,328人			
	手段(どうやって)	地域の医療・介護サービス資源の把握 切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築推進 在宅医療・介護連携に関する相談支援 地域住民への普及啓発					
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅医療・介護連携の課題抽出と対応協議 医療・介護関係者の情報共有の支援 医療・介護関係者の研修 二次医療圏内の市町連携					
		医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしく最期まで続けることができるよう、在宅医療関係者と介護関係者の連携推進を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		2,376	2,998	2,998	2,540	○報償費 100千円 ○旅費 50千円 ○需用費 427千円 ○役務費 489千円 ○委託料 1,932千円	
財源	県・国支出金	1,473	1,731	1,731	1,515		
	地方債		0	0			
	その他	0	690	690	0		
	一般財源	903	577	577	1,025		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
協議会、部会、多職種連携で行う研修会および市民向け講座		目標値	4	5	2	5	11
		実績	3	5	4	14	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
昨年度から進めてきた、在宅医療・介護関係者間のスムーズな連携とを目指し、多職種の在宅における役割や連携に際し、多職種間で共有しておくべき内容をまとめた情報共有冊子が完成、多職種の参加する作業部会にて活用方法について協議を行った。今後は、作成した冊子が多職種連携に役立てられるよう、周知啓発を行っていく。 また、もしもの時の医療と介護を考える「人生会議」の考え方について、住友別子病院との共催イベントや今年度から開始した出前講座等を実施し、普及啓発を実施している。 令和5年度より成果指標として出前講座の回数も計上するようにした。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
今後も在宅医療・介護連携における課題解決のため、課題の把握、協議会・部会での協議、医師会との連携、研修会の開催、市民向けイベントでの広報などを積極的に行う必要がある。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当			
昨年度より進めてきた、在宅における多職種の役割などをまとめた情報共有冊子『多職種連携 まるわかりBOOK』を作成することができた。また、作成した冊子を、病院や歯科、薬局など各医療機関や居宅介護支援事業所などの473機関に配布を行うことで、市内の医療・介護関係者に、連携しやすい関係を築くための参考資料として活用してもらっている。 今年度から始めた、もしもの時を考える「人生会議」についての出前講座も好評があり、5か所で開催することができた。今後も高齢者だけでなく、幅広い世代に人生会議を行ってもらえるように、出前講座やエンディングノートの配布などの普及啓発を今後も継続していく。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	00372_01		
事業名(行目名称)		認知症高齢者地域支え合い事業費	細事業名	認知症高齢者地域支え合い事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	地域包括支援センター			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	高齢者数	数値	37,328人			
	手段(どうやって)	認知症サポーター養成講座による認知症に関する正しい知識の普及 認知症の人やその家族が集い、地域社会からの孤立を防ぎ、地域の人や専門家と相互に情報共有できる場であるオレンジカフェの周知、カフェ同士の交流会の実施等の後方支援を実施					
	目的(どんな状態にしたいのか)	認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりを目指す					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		927	1,410	1,410	981	○報償費 15千円 ○旅費 8千円 ○需用費 345千円 ○役務費 139千円 ○委託料 870千円 ○公課費 33千円	
財源	県・国支出金	575	813	813	585		
	地方債		0	0			
	その他	0	326	326	0		
	一般財源	352	271	271	396		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
認知症サポーター数(累計)		目標値	19100	20900	22450	23300	25000
		実績	19354	21581	22525	23578	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>認知症サポーター養成講座は教育機関への周知を強化することで、講座申込校が年々増加している一方、企業等や住民グループを対象とした講座は回数が減ってきているため、周知を強化し、より広く認知症に関する正しい知識の普及に努める必要がある。</p> <p>オレンジカフェは新型コロナウイルスの影響により、中止しているカフェが多かったが、徐々に再開し、認知症の人やその家族の居場所の確保ができています。広報や、お世話人同士の交流の機会を持つことで、カフェの運営が継続できるよう後方支援を継続する。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>今後も認知症の正しい知識の普及のため、認知症サポーター養成講座を継続する。 認知症の人やその家族を地域で支え、チームオレンジのR7年度設置に向け、認知症の人等の困り事の把握、認知症の人等を地域で支える人的資源の発掘等、チームオレンジの土台作りにも努める必要がある。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		A: 計画通りに事業を進めることが適当				
<p>年間通して認知症サポーター養成講座を実施し、受講者に認知症の正しい理解や対応方法を伝えることができた。教育機関での開催は継続し、高齢者にかかわる機会のある企業等へも認知症サポーター養成講座の周知を強化していきたい。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03214_01		
事業名(行目名称)		家族介護者慰労金支給事業費	細事業名	家族介護者慰労金支給事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	要介護4以上の者	数値	1,690人			
	手段(どうやって)	在宅で中重度の介護を要する高齢者の介護保険料の所得段階が1の者は、月額7,000円、所得段階が2、3の者は、月額5,000円慰労金を支給。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	在宅で、中重度の介護を要する高齢者を介護している介護者に対し、介護手当を支給することにより、介護者の経済的・精神的負担の軽減を図る。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		6,120	6,738	6,738	6,157	○役務費 34千円 ○扶助費 6,704千円	
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0	0		
	その他	6,120	6,738	6,738	6,157		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
支給者数		目標値	120	120	120	120	120
		実績	114	119	104	129	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
特になし							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
中重度の介護を要する高齢者を介護している者の経済的負担軽減や在宅介護支援のため、継続して事業を実施する。							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		C:事業規模・内容・実施主体の見直し検討				
要介護者を在宅で介護している介護者を慰労するための事業であり、高齢者福祉の向上に役立っている。介護認定有効最長期間が延長されたことに伴い、的確な支給要件となるよう見直しを行う。また、限られた財源のなか事業を継続するために事業内容の見直しを行いながら、今後も事業を実施していく必要がある。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03524_01		
事業名(行目名称)		(施)老人クラブ育成費	細事業名	シニアクラブ活動支援事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内の老人クラブ会員		数値	3,506人		
	手段(どうやって)	老人クラブ主催で新居浜市健康都市づくりノルディックウォーキング大会を開催する。また、平成27年10月に結成された「生きいきシニア合唱団」活動の推進を図る。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	超高齢社会において高齢者が健康的な生活を維持するために非常に効果的と思われる新たな大会等への取り組みにより、外出しない傾向が強くなり、運動機能低下も懸念される高齢者の参加を促進し、高齢者からの発信による健康長寿社会への機運を盛り上げる。また、老人クラブ会員の役割と活動の場が確立できることで組織活性化につながり、ひいては将来的には近年減少傾向にある加入クラブ数及び会員数の増加を目指す。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額	○負担金補助及び交付金 368千円	
経費		368	368	368	368		
財源	県・国支出金	0	0	0	0		
	地方債		0	0			
	その他	368	368	368	368		
	一般財源	0	0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
ウォーキング大会参加者数及び合唱団参加延人数(人)		目標値	800	800	800	800	0
		実績	209	176	100	535	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>ノルディックウォーキング大会については11月11日の開催に向けての準備を行っている。介護予防の観点からも非常に高齢者に適したスポーツであり、多くの方に参加いただけるように検討していく必要がある。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
<p>他の地域にはない2つの事業を展開することで、高齢者発信による健康長寿社会実現への意識高揚が図られており、健康長寿の延伸につなげるためにも、次年度についても今年度と同様の予算規模を確保し、健康維持・介護予防に非常に効果的な市政懇談会からの提言事業であるこの2つの事業への支援は継続実施する。</p>							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)	D:事業の統合・休廃止を検討				
<p>令和2年度以降、コロナ禍において外出頻度が減少し、高齢者の運動機能低下が懸念されていたが、令和5年度においては、延べ535名がノルディックウォーキング大会及び生きいきシニア合唱団に参加することができ、高齢者の健康的な生活を維持し、健康長寿社会への機運を盛り上げることができた。しかしながら、老人クラブ数及び会員数の減少傾向は続いており、限られた財源を有効活用するため、本事業については一旦休止する。なお、健康長寿社会の実現に向け、ノルディックウォーキング大会及び生きいきシニア合唱団の活動は有益であることから、他の予算を使用し大会の開催等について検討する。</p>							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03524_02		
事業名(行目名称)		(施)老人クラブ育成費	細事業名	老人クラブ運営補助金			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	新居浜市内の老人クラブ会員		数値	3,506人		
	手段(どうやって)	新居浜市老人クラブ連合会および単位老人クラブへ運営補助金を支給する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	新居浜市老人クラブ連合会及び単位老人クラブ運営を安定させ、活動を活性化させることを目的とする。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費		1,484	1,510	1,510	1,357	○負担金補助及び交付金 1,510千円	
財源	県・国支出金	988	1,006	1,006	904		
	地方債		0	0			
	その他	0	0	0	0		
	一般財源	496	504	504	453		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
老人クラブ組織率(老人クラブ会員数/65歳以上の高齢者人口) 単位:%			目標値	16.5	15	15	10
			実績	13.5	10.6	9.4	9.4
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
老人クラブ会員数の減少傾向、組織率の低下について大きな課題となっている。新居浜市老人クラブ連合会では会員増強の方策として女性部、若手部が中心となって地域に密着した活動に取り組み、今後はさらに地域支援活動の担い手としての介護予防活動等に積極的に取り組んでいく必要があると考えている。							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	現状維持				
超高齢社会により、高齢者を主体とする介護予防と相互の生活支援という観点から、老人クラブの活動及び役割の重要度は日々増しており、本市が推進している健康長寿社会の実現を目指すために、次年度についても国・県とともにその取り組みと組織の活性化について継続して支援していく。							
VI 事後評価							
成果		総合評価(令和5年度)	A:計画通りに事業を進めることが適当				
令和5年度についても住み慣れた地域で感じられる老人クラブ活動の充実、単位老人クラブ活動の活性化を図ることができ、若手高齢者の活力が発揮できる場への土台作りを進めることができた。超高齢化社会が既に到来している現在、介護予防活動の担い手として、高齢者の生きがいと健康づくりを推進している老人クラブの役割の重要度は増しており、本市が推進している健康長寿社会の実現を目指すために、国・県とともにその取り組みと組織の活性化について継続して支援していく。							

令和5年度事務事業評価表

I 基礎情報			事後評価	2023	03552_01		
事業名(行目名称)		ねんりんピック開催事業費	細事業名	ねんりんピック開催事業			
総合計画	まちづくり	健康・福祉	施策	高齢者福祉の充実			
	基本計画	共に生き支え合う社会づくり	担当課	介護福祉課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)	ねんりんピック愛媛大会での新居浜市開催種目数	数値	3競技			
	手段(どうやって)	全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、令和5年度に、愛媛県において第35回大会が行われることとなった。新居浜市においても、交流大会を開催することになり、サッカー、軟式野球及びバウンドテニスの3競技及び関連イベントを実施する。					
	目的(どんな状態にしたいのか)	全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、高齢者を中心に健康の保持・増進、社会参加、生きがいの高揚等を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与することを目的としている。					
III 投入費用							
実施年度		令和4年度 決算額(千円)	令和5年度(千円)			令和5年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	年度末予算額	決算額		
経費			105,822	105,822	15,744	○職員手当等 7,971千円 ○負担金補助及び交付金 97,851千円	
財源	県・国支出金	0	63,888	63,888	0		
	地方債		0	0			
	その他		41,934	41,934	15,744		
	一般財源		0	0	0		
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和3年度	令和4年度	令和5年度中間値	令和5年度	令和6年度
延べ参加者数		目標値			3000	3000	
		実績			0	3082	—
V 事中評価							
評価視点		妥当性	高い	有効性	高い	効率性	やや高い
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向	現状のまま維持する				
<p>本大会成功に向けて、実行委員会総会、プログラム作成、各種委託契約締結、各関係団体との協議・調整等を行い、交流大会(サッカー、軟式野球、バウンドテニス)及び関連イベント(健康づくり教室、おもてなしイベント)の準備を順調に進めることができています。</p>							
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向	休止・廃止				
<p>令和5年度でねんりんピック愛媛大会は終了するため事業も終了となる。</p>							
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和5年度)		D:事業の統合・休廃止を検討				
<p>ねんりんピック本大会は、事故やトラブルもなく、盛況のうちに終了することができた。交流大会(サッカー、軟式野球、バウンドテニス)は3競技とも円滑な運営ができた。健康づくり教室及びおもてなしイベントについても各会場で実施し、参加選手へのおもてなしを行うとともに、全国に新居浜らしさをアピールすることができた。参加選手からは「いい大会だった」「新居浜はよかった」といった称賛の声をいただいた。また、必要最小限の経費支出に努め、市の支出を大幅に削減できた。</p>							

令和〇年度 事務事業評価表

I 基礎情報							
事業名(行目名称)				細事業名			
総合計画	フィールド			施策			
	基本計画			担当課			
II 事務事業の実施概要							
事務事業内容	対象(誰・何を)				数値		
	手段(どうやって)						
	目的(どんな状態にしたいのか)						
III 投入費用							
実施年度		令和〇年度 決算額(千円)	令和〇年度(千円)			令和〇年度事業の主な経費(千円)※当初予算ベース	
			当初予算額	現執行額	決算額		
経費							
財源	県・国支出金			-			
	地方債			-			
	その他			-			
	一般財源			-			
IV 指標							
成果指標名(計算式)			令和〇年度	令和〇年度	令和〇年度中間値	令和〇年度	令和〇年度
		目標値			-		
		実績					-
V 事中評価							
評価視点		妥当性		有効性		効率性	
事業が半年経過し生じた課題等		事業の方向					
翌年度予算の要求方針(改革・改善案等)		予算の方向					
VI 事後評価							
成果	総合評価(令和〇年度)						
事中評価	作成担当者		最終評価責任者				
事後評価	作成担当者		最終評価責任者				